



今回の緑秀会田無病院まつりの実行委員長を務めさせていただき理事長補佐兼事務長の宮田です。

毎年、丸山院長の発声の下で盛り上がりを見せていますが、今年も平成30年11月11日(日)に西東京市民まつりと共催という形で開催する事となりました。昨年は諸事情により規模を縮小しての開催でしたが、今年は原点に立ち返り評判の良かった模擬店等を復活させ、地域のみなさまとふれあい緑秀会の事を知ってもらいながら、みんなで楽しく盛り上げていければと思っています。

成功を収める為には多くの方々のご協力が必要です。何卒よろしくお祈りいたします！

緑秀会田無病院まつり実行委員長  
宮田 雄吉



医療法人財団 緑秀会



田無病院  
〒188-0002  
東京都西東京市緑町 3-6-1  
TEL. 042-461-2682

介護老人保健施設  
エバグリーン田無  
TEL. 042-461-7200

田無訪問看護ステーション  
TEL. 042-461-7722

田無居宅介護支援事業所  
TEL. 042-461-7981

緑町地域包括支援センター (西東京市委託事業)  
TEL. 042-461-7081

西東京市在宅療養連携支援センター  
にしのみ  
〒202-8555  
東京都西東京市中町 1-5-1  
(西東京市保谷保健福祉総合センター1階)  
TEL. 042-464-1311 (市役所代表) 内線: 2831  
TEL. 042-438-4122 (直通)



小規模多機能型居宅介護  
みどりの樹  
〒202-0012  
東京都西東京市東町 2-2-6  
TEL. 042-439-9311

グループホーム  
みどりの樹  
TEL. 042-439-9315



サービス付き高齢者向け住宅  
みどりの樹 清瀬  
〒204-0011  
東京都清瀬市清戸 709-17  
TEL. 042-494-6161

社会福祉法人 緑秀会



グリーンロードヘルプーステーション  
TEL. 042-461-2634

特別養護老人ホーム  
グリーンロード  
〒188-0004  
東京都西東京市西原町 2-2-11  
TEL. 042-467-7736

地域包括ケア病床開設のご挨拶

田無病院 院長 丸山道生

とうとう本年8月に、田無病院に「地域包括ケア病床」が開設されました。強力に地域包括ケアシステムを推進する西東京市にあって、まさに田無病院はそのシステムの要であるにもかかわらず、いままで「地域包括ケア病床」が設置できていませんでした。待ちに待った開設です。

急性期治療を終了し、病状が回復しつつある患者さんや、病状が悪化し、入院が必要な在宅患者さんなどに入院していただき、その患者さんたちを地域での生活に戻していく、それが「地域包括ケア病床」の役目です。最長60日の入院期間の範囲で、多職種チーム医療を駆使して在宅復帰を応援します。

お問い合わせ先は、

田無病院・医療福祉連携部 (☎042-461-7225 または 042-461-5385、月曜から土曜日の9時から17時まで)

よろしくお祈りいたします。



みなさん、期待しててください！

田無病院 基本理念と基本方針

基本理念

「楽しく生き、幸せに死ねる」地域医療と介護を目指します。

老いても足であるまち

老いても口から食べるまち 西東京

You can walk, you can eat, forever! West-Tokyo City

基本方針

- ① 急性期、慢性期、在宅を繋ぐ医療を提供します。
- ② 地域医療と介護の融合を目指します。
- ③ 患者さまとその家族の立場に立った医療と介護を提供します。
- ④ 職員が健康で楽しく働ける職場を目指します。

当院回復期リハビリテーション病棟では入院中から質の高い生活を送れるようにQOL(Quality of life=生活の質)向上委員会というものがあります。QOL 向上委員会では患者様の退院後の社会生活を見据えて様々な活動に取り組んでおります。

今回は「脱水予防の啓蒙活動」としてうちわ作りを行いました。うちわには患者様自身が考えた川柳や患者様が書いた絵を載せました。うちわの作成作業は患者様方で行って頂き、市民公開講座で市民に向けた配付も患者様と一緒にさせて頂きました。



実際に配布をした患者様は仲間で作った「うちわ」を市民に届けようと積極的に声かけし、配布活動をしていました。その時の生き生きとした表情は入院生活ではなかなか見られないもので、見守っていた我々も驚くほどでした。

患者様が自分たちで「考え」、「作り」、「配布する」といった一連の主体性を持った活動が責任感のある積極的な行動を生み出したのではないかと思います。患者様自身が「治療を受ける」といった受動的なものだけでなく、「社会参加するため自ら動く」といった能動的な活動が行えるよう、これからも引き続き取り組んでいければと思っています。



## 第20回市民講座 開催報告

患者様が手作りうちわを配布された市民講座は7月21日(土)に開催されました。

テーマは①「この夏の脱水を考えよう!」講師上坂英二先生・阿部浩子先生、②「脱水・夏バテ予防の食習慣」講師田中美江子先生・工藤正美先生でした。うちわでの啓蒙活動と合わせて、脱水予防について市民の方や患者様へ講演をしていただき、当日暑い中ではありましたが、31名が参加されました。梅干しドリンクの試飲、ヨーグルトの試食もあり、塩分の大切さが理解出来たと好評な感想をいただきました。



次回は9月15日(土)を予定しております。ぜひ、皆様のご参加をお待ちしております。

## 第21回市民講座を開催します!

多くの突然死が防げる現代では、ぴんぴんころりと亡くなる人はごくわずかです。多くの人は老いて死に近づくにつれ、次第に食べられなくなり、寝たきりになり、やがて意識がなくなり、呼吸や心臓が止まって死に至ります。終末期、生命維持装置や人工的栄養などの延命治療で「死」を先延ばしにするか、痛みや苦しみを減らす治療のみで自然な「死」を受け入れるか…。人生の最期をどう生きたいか少し考えてみませんか?

- テーマ** 少し気楽な死のはなし  
講師: 田無病院 内科医長 清水孝一
- 日時** 2018年9月15日(土) 14:30~16:00 ※開場 14:00
- 場所** 田無病院 外来棟 1階
- お問い合わせ** 042-461-7225 または 042-461-5385  
医療福祉連携部



## 農作業リハビリテーションの取り組みが

## 日本経済新聞に掲載されました!

田無病院 リハビリテーション科 作業療法士 河原崎 崇雄



リハビリテーションの訓練として、身体や精神機能の回復、生活の質の向上を図るため農作業や園芸といった活動を取り入れる事があることをご存知ですか?

このたび、当院の農作業リハビリテーションが日本経済新聞に取材を受け、6月20日の紙面に掲載されましたので、ご紹介いたします!

以下、取材にて説明しました内容の要約です。

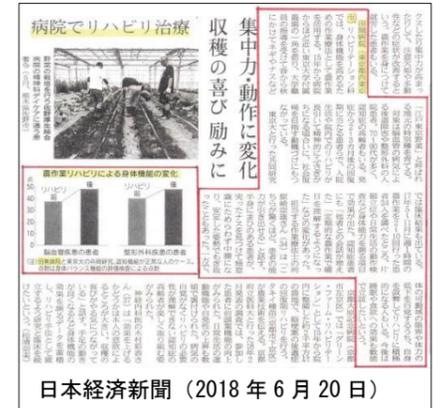
現在、当院リハビリテーション科では作業療法部門が中心となって、東京大学大学院農生命科学研究科と共同して、江戸東京野菜を用いた「農作業におけるリハビリテーションの効果」について研究を行っています。

当院回復期リハビリテーション病棟に入院中の患者様と、週に1回1時間程度、西東京市にあります東大農場で、リハビリテーションスタッフの付き添いの下、農作業を行っております。活動としては、土を耕し種をまく作業から、収穫し、調理し、食す、という一連の活動を全て患者様と一緒にしております。農作業と聞くと、何やら患者様と行うには難しそうに思えますが、参加された患者様はとても生き生きと取り組んでおり、農作物が成長していく過程を喜びながら活動を行っております。

今年度で3年目になりますが、過去2年の活動では、農作物を育てる中でバランス能力や歩行能力と言った身体機能の向上がみられ、また自分たちで育てた農作物が成長し収穫できると患者様の自信に繋がり、意欲が向上するなどの効果が得られました。その他にも日付が分からなくなる見当識障害や記憶障害のある認知症の方も定期的に東大農場に行く事により、日付を理解するようになるなど様々な効果がみられました。

農作物を育てることはもちろん、収穫した農作物を患者様と調理して食べたり、管理栄養士と共同して収穫した作物を病院食として提供もしております。

これからも引き続き患者様と一緒に取り組みますので、どうぞよろしくお願い致します。



## News! 学会・優秀賞 教育研究担当の高瀬麻以さんが快挙



左から、丸山院長、学会賞の賞状を手にする高瀬さん(教育研究担当) 吉田さん(リハビリ科)、田中さん(訪問栄養担当)

今年、6月に開催された第10回日本静脈経腸栄養学会首都圏支部会学術集会で、教育研究担当の高瀬麻以さんが、なんと2年連続の学会賞を授与されました。演題名は「回復期リハ病棟入院患者のクラスタリング解析」で、高度な統計学的解析法を使って、東病棟入院患者のリハビリと栄養に関して検討を試みました。田無病院には教育研究担当として、ボランティアで上坂英二先生、阿部浩子先生も所属していて、この研究に協力してくれました。田無病院のリハビリ科と栄養科、看護部の活動が世に認められつつあることを強く感じました。